

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300194	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 たかつ新館			
所在地	(〒213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月21日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>毎月複数の行事を行っています。具体的にはバスを利用しての外出行事、利用者の誕生日、クリスマス等の記念日に行うパーティー、地域の祭りへの参加等です。</p> <p>平成25年4月より利用者は毎朝、スタッフと共に館外へ散歩に出ています。利用者の外出希望が多く、身体機能の維持・向上という課題もあったことから外出支援の一環として行っています。散歩を毎日行う事で、外出をする楽しみができ、生活意欲の向上となっている他、下半身の筋力低下を防止でき、より長距離の歩行が可能となりました。</p> <p>利用者に対し、事前に外出先の希望を伺うようにし、実際に行く事で外出に対する参加意欲も高くなっています。スタッフは、行事を楽しむという意識が強くなり、行事に対する意欲も強くなっています。その為、たかつ新館では継続して、定期的な外出を行う事が可能となっており、利用者・スタッフ共に楽しみつつ参加出来ています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月5日	評価機関 評価決定日	平成27年5月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所はJR南武線久地駅から徒歩14分ほどの、梨畑の残る住宅地の中にある。敷地内は、グループホームや薬局、有料老人ホームなど介護施設が集まってビレッジを形成している。建物は1階に同法人の小規模多機能型居宅介護が併設され、2階3階はグループホームとなっている。法人は神奈川県下にグループホームや小規模多機能型居宅介護、複合型サービス、訪問看護、有料老人ホーム、高齢者住宅など多くの事業所を展開している。</p> <p><b>【外出レクリエーション】</b> 日常の生活を施設内にとどまらずいろいろな楽しんでもらおうと、外出に力を入れている。散歩はもちろん、月に1回外出レクリエーションを企画し、職員総出で利用者と外出している。利用者にとってもこの外出レクリエーションへの参加が格好の努力目標となっており、毎日の散歩にも定期的に出かけている。皇居や海ほたる、川崎大師や東京タワーなど様々な場所に出かけており、張り合いのある生活につながっている。</p> <p><b>【法人の連携】</b> 法人は様々な事業を展開しており、在宅サービスや施設、小規模多機能型居宅介護といったサービスを、その時の状況によって使い分けることができる。重度化した場合も、小規模多機能型居宅介護や、複合型サービスで在宅生活を継続するか、グループホームや有料老人ホームに入所するか、相談しながらサービスを選択することができる。また、職員も法人内で連携しており、研修や会議等で問題点を共有し、サービスの質の向上に努めている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 たかつ新館
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、利用者が笑顔で生活出来る様、職員は常に頭におき、努力しています。その為に、毎日の散歩や外気浴を実施し、外に出る機会を提供しています。	平成23年開業時の施設長が職員の考えを聞きつつ作成した「生き活きと暮らそう」を理念として定めた。職員は入職時に研修で学んでおり、2月のフロア会議でも改めて話し合った。職員も利用者と共に外出レクリエーションや散歩などで外に出る機会を増やし、生活の中で笑顔を引き出している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやイベントへの参加をしている他、利用者の散歩中や買い物をした際、地域の方々と挨拶をする事により顔馴染みになっています。	町内会に加入し夏祭りに利用者と共に参加する。秋の大祭では、御輿が立ち寄り、子供御輿の担ぎ手に利用者が菓子などを手渡ししている。各階に歌やハーモニカ、工作レクリエーションのボランティアが来ている。散歩の際に顔見知りになったご近所の方とあいさつを交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と地域の方々との挨拶や、地域のお祭り等で認知症の方と触れ合う機会を持って頂くと共に、会話を通じて、認知症の方への理解をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を、フロア会議にて施設長より各スタッフに伝え、施設内のサービス向上に反映出来る話し合いをし、実施しています。また、災害時の対応や行事の提案、検討、実施にもつなげています。	2か月に1度、花物語たかつ、たかつ新館、花織たかつ新館の3事業所合同で会議を開催している。町内会長、地域包括支援センター職員、区職員、利用者家族の参加を得ている。事業報告の他、地域包括ケアシステムの説明や防災について話し合っている。	地域の防災などは話し合いの緒に着いたばかりです。今後は民生委員や地域の方の参加も呼びかけ、様々な立場の方の意見を聞き、運営に反映させていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の認定調査、入居人数の現状確認等、様々な面において市町村担当者と連携を取る等して協力関係を構築しています。	高津区の窓口には運営推進会議の議事録を郵送している。地域包括支援センターとは困難事例や利用者の紹介等で連携している。事業所連絡会の立ち上げを近隣の事業所と検討している。	市役所の担当者とは、運営推進会議の議事録を届けるなど、できるだけ窓口に出かけ、協力関係を築くことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が拘束にあたるのかを学び、日頃のケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開ける様にしています。	法人の身体拘束廃止の研修に参加し、その内容を毎年研修で職員に周知している。日ごろから職員同士で注意できる環境づくりに力を入れ、言葉遣いなどが拘束にあたらないか注意し合っている。階段等の危険があるため、日中でもフロアごとに施錠している。利用者が外出するそぶりが見えると、職員が付き添って散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。また、言葉使いや態度に気をつけ、職員同士でも注意しあえる環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、その際に得た資料や情報をスタッフ間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は必ず、ご家族の意向を確認し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、ご理解を頂いています。また、日々の状態の変化にて対応方法を変える際は、必ず家族の意向としてケアに反映しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族が面会に訪れた際は利用者に対する、ご意見・ご要望をお聞きし、サービス向上の反映をしています。	毎月発行している「たより」に写真を掲載することで家族とコミュニケーションをとっている。面会時や運営推進会議の際に意見を聞き、運営に反映させている。家族からの意見でフロア玄関の扉に次回行事の予告を張り出すことにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会を毎月行い、各委員会において、スタッフ同士が互いに意見を出し合い、集約し実践する事で、運営に反映をしています。	毎月のフロア会議で職員とは意見交換できている。職員の「利用者に関わる時間をとりたい」という意見を検討し、個々の食事をお盆に盛ることで配膳にかかる時間を短縮したり、調理方法を変更するなど改善につなげた。3階は利用者の見守りに死角ができるという職員の指摘があり、カーブミラーを2つ取り付けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・フロアリーダーがスタッフと面談を行い、スタッフの意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、スタッフが意欲的に就労出来る様にしている他、各種研修を行う事で、自信を持って業務にあたる事が出来ています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員よりスタッフに対し、研修参加を促す等、研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては、新人研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設外の研修に参加し、他施設のスタッフと、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上が出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時アセスメント・ケアプランを把握し、会話を重ね、安心して過ごしていただける様にし、利用者のご要望がある場合、可能な限り、実現出来る様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅での利用者の生活の仕方や趣味をお聞きする等し、不安・ご要望を聞く等、会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が現在必要としている支援内容をアセスメントや利用者の生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲内で利用者には家事に参加をしていただき、利用者とスタッフが相互に協力し合う関係が作れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室にてご家族とスタッフによる会話が出来る環境を作り、その中で利用者の方のご様子やご要望を伝えていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が行ってみたい場所、思い出深い場所への外出希望があれば、一緒に外出して関係性が途切れない様になっています。また、日頃の買い物の際のお店は利用者にとって馴染みとなっています。	1階の小規模多機能型居宅介護に通っていた利用者が、時々訪問して知り合いに挨拶している。外出レクリエーションで東京タワーや川崎大師など利用者にとって懐かしい場所に出かけている。散歩に行き、近隣の梨園で梨をむいてその場で食べ、昔話をしている。思い出のあるおやつを提供し、話題にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・各種行事・誕生会、その他日常での利用者同士の会話が更に弾む様、必要に応じて、スタッフが話を盛り上げ、利用者が孤立せず楽しめる様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も退居先へ面会に行く他、病院へ見舞いに行く等、ご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を一人一人丁寧に聞き、ご本人の生活上の意向を聞く様にしています。その意向をスタッフ間で話し合い、利用者が満足出来る様検討し実践しています。利用者の表現が困難な場合、表情からくみ取る様に努力しています。	初回アセスメントで家族から生活歴や好みを聞いている。利用開始後は、入浴時や散歩などリラックスしている時に職員が聞き取ることが多い。利用者の言葉は個人記録に書くようにしており、カンファレンスで職員が共有している。思いを言葉にできない利用者からは、表情や態度からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者毎にカンファレンスを行い、現状をスタッフ全員が把握しています。生活上のご様子は個人記録に記入しサービス開始時から現在までの経過が分かる様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々のご様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや毎朝の朝礼時に話し、フロアスタッフや施設長、医療連携看護師が把握出来るようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議や利用者に関するモニタリングの際、利用者の個人ケアに関する情報を共有し、意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し、支援を行っています。	月に1回のフロア会議でカンファレンスを行っている。個人記録に記載された利用者の言葉から想いをくみ取り、サービス担当者会議を行っている。医療の記録も参考に計画を立てている。毎月ケアマネジャーがモニタリングを行い、3か月ごとに評価をしている。6か月ごと、または急変時に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々のご様子を個人記録に残し、申し送りや朝礼を通して、情報共有し、対応方法の変更を話し合い実行しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のADLの変化等により、他サービスの利用が必要な際は、カンファレンスを行い、ご本人の状態に適した対応を行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽ボランティア・体操ボランティアによる活動への参加の他、地域の祭りへの参加を行う等、楽しんで生活を送る事が出来ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に医療連携看護師が情報を提供し、月2回往診を行っている他、利用者の特変時は早急に、かかりつけ医に対応を求める事が出来ています。	利用者全員が月2回、往診医を受診しており、看護師が記録をしている。整形外科や眼科等の専門医は、原則家族対応で受診しており、その内容は家族からの報告や職員が確認をとって受診報告書に記入している。医師も看護師も24時間対応で、緊急時に対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや個人記録に利用者の様子を記入し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。必要時はいつでも連絡が取り合え、利用者に対する適切な受診・看護に繋げられる様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は利用者への面会を頻繁に行い、病院関係者や御家族とも相談しながら、早期な退院に備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合・或いは終末期に向けた方針については入所前の段階でご家族に説明し、了承していただいています。また、常日頃からそのような話題もご家族と十分話し合うようにしています。	「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」があり、契約時に説明し、同意をもらっている。職員には看取りのマニュアルで研修を行い、方針を説明している。利用者家族が望めば、医師と家族の話し合いのうえ、可能な範囲で対応する方針である。開所間もないので、看取りの実績はない。	実際の看取りを行う場合を想定し、看取り開始時の書類等の整備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した際のマニュアルがフロアに設置されており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており、スタッフの対応能力も向上しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められる様にしています。近隣に同じ法人のGHがあり、協力体制が出来ています。また、運営推進会議で話し合い地域との協力体制にも繋げています。	7月は火災想定、12月は地震発生後の火災訓練を夜間想定で行った。訓練は近隣の薬局や面会に来ていた家族と共に利用者も参加し、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行った。備蓄は食料と水が法人から定期的にリストと共に送られてきて、1階の階段下に保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ずつの性格や生活の様子を把握し、利用者に対する言葉遣いや態度について常にスタッフは気を付け、トイレに入った際は必ずドアを閉める等といった、プライバシーにも配慮し、支援しています。	家族から聞くなどして、利用者ごとの生活歴を把握し、趣味を職員と一緒にやるなどの支援をしている。トイレへの誘導は耳元で話すよう指導している。利用者の個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え時の洋服の選択、買い物時どの品物を買うか、必ず、利用者により自己決定をいただく機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか、利用者の意向に沿った対応を日々行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご自身で洋服を選んでいただき、より良くおしゃれが出来る様、必要時は声かけを行う等しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルマットの設置、テーブル拭き・食器洗い等利用者に手伝って頂いています。スタッフは、各料理の説明を行う等、食事が楽しみの一つとなる様支援しています。	利用者に関わる時間を作るため、宅配業者から冷凍食品を購入している。味噌汁は職員の手作りで、利用者に味を見てもらいながら作っている。隔週に提供するパンは近隣で購入している。菓子やおやつはイベント時に利用者と共に手作りしている。食事時は、職員1名が見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供しています。また、食事・水分摂取量を記録し、摂取量が足りない場合は、好きな物を提供し、召し上がって頂く等の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は声掛けし、スタッフが見守る中で利用者の能力に応じたケアを行っています。義歯を装着されている方については毎夜、ポリデントによる消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間を記録し、排泄間隔が開きすぎない様注意し、必要時は排泄の声掛けを行っています。排泄の際、利用者をご自身で行える事は行っていただいています。	トイレは各フロア3か所あり、1つは車いすが入れる大きさがある。ドアは折り畳めるタイプで、跳ね上げ式の手すりが付いている。個人記録で毎日利用者の排泄状況をチェックしている。利用者のシグナルを見落とさないようにトイレに誘導して、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、白湯を飲んでいただいている他、散歩・体操を行う等、日常のケアの中に便秘予防が組み込まれ、実行しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が長くても3日以上開かない様、利用者に入浴を勧める声掛けを行っています。入浴希望の有無を尊重し、入浴予定時間の変更等、臨機応変な対応が行えています。	入浴の間隔は3日以上あかないようにしている。時には足浴や清拭に変えることもある。入りたくない時は無理強いをせず、本人の気分がよくなった時を見計らって声をかけるようにしている。湯温を好みの温度にしたり、入浴剤を使用したり、バラの花びらや、ゆず、菖蒲などを浴槽に入れて楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に応じて、居室でお休みになる他、フロアのソファに座って寛いで頂いています。散歩やレクリエーション等の実施により、日中は活動的に過ごし、夜間は安眠出来る環境作りが出来ます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、スタッフ2名体制による誤薬防止チェックを行っている他、フロアに処方箋リストを設置し、いつでもスタッフが薬の内容を確認出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等、多くの日常家事を行って頂いています。また外出レクリエーションや散歩を通して利用者に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課としています。その他バラ苑や梨狩り・水族館や動物園といった普段訪れる事のない場所へ外出し、利用者のご家族から喜ばれています。	月に1度外出レクリエーションを行っており、職員と利用者全員で、海ほたるや皇居、川崎大師など行きたいところに出かけている。担当の職員が企画、見積もり、行事計画書の作成を行う。近隣を毎日散歩しているほか、梨園やバラ苑にも気軽に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、スタッフが代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	週1回、玄関やフロアに花を活け、季節感を出しています。フロアの壁にはイベントのポスターや写真を貼ったりしている等、利用者が、楽しんで暮らせる環境作りをしています。	玄関に利用者と共に活けた季節の花が飾られている。トイレのドアには大きくトイレのマークをつけ、間違わないように工夫している。ドアのノブや取手、手すりなどを1日4回拭いている。トイレも4回掃除し、チェック表で管理をしている。加湿器に除菌の液を入れ、殺菌している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由に会話でき、お好きな時に居室にてお休みになる事が出来る等、利用者が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物やご家族の写真を置いたり、利用者にとって居心地のよい、空間作りをしています。	居室は、空調設備と電気、ベッド、洗面台、収納が備えつけられている。利用者は使い慣れたテレビや家具、家族の写真や仏壇等を持ち込み、居心地良く暮らせるよう工夫している。カーテンも自分の好みの物を使用している。職員は1日1室ずつ、ベッドを動かし壁側の柵や床下を掃除し、清潔を保つ努力をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の生活の妨げとならないかを念頭に環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをしていただく等、出来るだけ自立した生活が送れる様にしています。		

事業所名	花物語 たかつ新館
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、利用者が笑顔で生活出来る様、職員は常に頭におき、努力しています。その為に、毎日の散歩や外気浴を実施し、外に出る機会を提供しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやイベントへの参加をしている他、利用者の散歩中や買い物をした際、地域の方々と挨拶をする事により顔馴染みになっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加している時や、散歩時等で利用者と触れ合ってもらい、スタッフの対応を通して、認知症の方に対する理解を深める機会を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出た意見を、申し送りや会議で共有し、フロアでのサービス向上に繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の認定調査、入居人数の現状確認等、様々な面において市町村担当者と連携を取る等して協力関係を構築しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為の防止に関する研修を実施し、身体拘束行為の禁止をスタッフ全員が意識し互いに注意しあえる環境にあります。フロアの扉は防犯上の観点から施錠していますが、外出希望者にはいつでも応じられる様にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待行為の防止に関する研修が実施され、スタッフ間で虐待行為の防止に関して注意しあっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、その際に得た資料や情報をスタッフ間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は必ず、ご家族の意向を確認し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、ご理解を頂いています。また、日々の状態の変化にて対応方法を変える際は、必ず家族の意向としてケアに反映しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族が面会に訪れた際は利用者に対する、ご意見・ご要望をお聞きし、サービス向上の反映をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・全体会議・各委員会活動にてスタッフの意見を聞く機会があり、意見を元にした業務への反映がなされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・フロアリーダーがスタッフと面談を行い、スタッフの意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、スタッフが意欲的に就労出来る様に行っている他、各種研修を行う事で、自信を持って業務にあたる事が出来ています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員よりスタッフに対し、研修参加を促す等、研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては、新人研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設職員の訪問や見学があった時や外部研修の際に、互いの施設サービスに関する意見を交換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者とのコミュニケーションを行う事を心掛け、利用者の不安感の軽減、質問にお答えし、安心して過ごせる環境作りを日々、行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への挨拶、または利用者のご様子の報告はしっかりと行いご家族からのご要望をサービスに反映出来ています。また、ご家族が話しやすい環境を作り、信頼関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いを行い、必要な支援を取り入れたケアプランがあります。また、利用者が必要としている支援の見極めをスタッフ間で行い、管理者・施設長とも連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や食器の後片付け、洗濯物たたみ等の家事を行なって頂いています。スタッフは利用者と一緒に生活をしているという心構えで接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が生活上で必要としている物をご家族に購入して頂いたり、スタッフとご家族が連携して利用者を支えていく体制が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が行ってみたい場所、思い出深い場所への外出希望があれば、一緒に外出して関係性が途切れない様にしています。また、日頃の買い物の際のお店は利用者にとって馴染みとなっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の多くが参加出来る内容の会話を行う他、家事のお手伝いを通して、利用者同士が協力して支えあい・助け合って生活出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人のもとへ面会に訪れる他、ご家族からご相談がある際は施設長に繋ぎ、対応するアフターフォローも行われています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の希望や意向を聞き、スタッフ全員でそれを把握、実現に向けた取り組みを行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の情報を管理者・施設長に尋ね、情報を得ている他、アセスメント表を熟読し、これまでの生活歴を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや個人記録の記入の他、その日毎に異なる利用者のご様子をスタッフ間で情報共有し把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて利用者の現状と生活上の問題点に対する対応法を話し合い、導き出された対応案を実行している他、ご本人やご家族の意向を参考にした介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りに特記事項を記録し、フロア会議や朝礼でスタッフ間で情報共有し、介護計画の見直しが必要な際は活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人のニーズに対応しつつ、時事変化するご様子から、どのような支援が必要となるかをスタッフ間で話し合い、実行する等、臨機応変な対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	森林公園やバラ苑といった地域の施設を利用する他、地域の祭りへの参加、ご近所の方との会話、ボランティアの方による演奏等、多様な地域の資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、連絡を取り、受診に繋げるといった連携を取り、適切な医療を受けられる体制が構築されています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師と常にご利用者の対応について連絡が取れる体制が作られており、日常でスタッフが気づいた事を申し送りや個人記録に残し、適切な対応をご利用者が受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご様子をご家族や看護師から聞く他、施設長と医療機関の間で連絡を取り合う等、病院関係者との関係作りも出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化或いは終末期の方に関する支援をご家族に説明しています。また日頃からそういった内容をご家族と話し合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対策マニュアルがフロアにあり、いつでも見られる様になっています。また、利用者の急変時の対応を研修を通して学んでいます。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められる様にしています。近隣に同じ法人のGHがあり、協力体制が出来ています。また、運営推進会議で話し合い地域との協力体制にも繋げています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を尊重し、居室に入る際は必ずノックを行う、言葉遣いは失礼のないようにする等、基本的な対応を忘れずに行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え時の衣類は利用者を選んで頂く等、日常生活上で選択する機会がある場合、ご本人に決めていただける様に声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを尊重し、無理強いほしないようにしている等、利用者が1日を思い思いに過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ、髪型等に配慮しつつ、洋服の選択はご自身で行っていただき、おしゃれを楽しんで頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を利用者に伝えていきます。また、利用者には出来る限り、調理のお手伝いをしていただき、配膳や片付けもしていただいています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取出来ているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方はスタッフが付き添い、介助して口腔ケアを行なっています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリデントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が開いている方に対しては声掛けし誘導を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分摂取していただき、散歩や体操を通して運動を行うようにしています。医療連携看護師からのアドバイスにより、便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に即して、入浴の日時を調整しています。入浴時は会話などで楽しい雰囲気作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を観察し、休息希望の際はいつでも居室で休める様にしている他、日中活動的に過ごす事で夜間の良眠に繋がるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ2人体制での服薬チェックを行い、誤薬防止に努めている他、フロア内に処方箋ファイルを設置し、いつでも用法・容量が確認出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣向を把握し、喜び、笑顔となる様支援しています。体操やカラオケ、散歩等、多種多様な支援を行なっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物への参加の他、月1回～2回実施しているコミュニティバスを利用しての外出を企画し実行しています。外出・面会は利用者・ご家族の希望に合わせ、いつでも可能です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設管理ですが、利用者の希望によっては少額の金銭を自己管理している方もおり、その方の金銭管理能力に応じた支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、ご家族のご都合を考えた上で電話が出来る様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1週間毎に花を活け、生活の場に彩があります。壁にポスターや写真を貼り、居心地の良い環境が作れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、いつでも寛げるようにしている他、玄関ホール・玄関先に椅子を設置し、利用者同士が会話出来る環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具を持ってきて頂いています。また、ご家族やご本人と相談をしながら、過ごしやすい部屋作りが出来る様、支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーであり、利用者の残存能力を活かしつつも安全な生活がおくれる様になっています。利用者の「できること」や「わかること」をスタッフ同士が理解した上で支援しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 たかつ新館

作成日 平成27年 6月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域の防災に関しては、詳細が決まっておらず、様々な立場の方との意見交換が必要である。	防災にあたって、具体的な対策や対応方法を定める。	・運営推進会議で更に様々な方と意見交換をする。 ・地域の方を交えた防災訓練をする。	1年
2	5	市役所の担当者との協力関係を築き、関係を深める必要がある。	市役所の担当者に顔と名前を覚えてもらう。	・直接窓口に出向き、担当者とお話しをする。	1年
3	33	実際の看取りを行う前提で、書類の整理が必要である。	実際に看取り対応になった際、詳細の説明や同意書を検討する。	・書類に関しては、施設での検討が難しく、会社に相談する必要がある	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。